

これまでの米百俵賞受賞者

第1回米百俵賞受賞者（H9 表彰）

中野 信隆（長岡市）

インドネシア・スラバヤ電子工学ポリテクニクの設立と教育指導に尽力するとともに、独自の育英基金制度を創設し、指導的技術者の養成に貢献している。

同特別賞受賞者

浅香 恵（富山県小矢部市）

子どもたちが素直で思いやりのある人に育ってくれることを願い、『誕生日には「ありがとう」を』を著し、各地で配布している。

第2回米百俵賞受賞者（H10 表彰）

スタニスラヴァ・シュラムコヴァ（チェコ共和国国籍）

母国チェコ共和国の青少年に日本の文化・武道を紹介し、両国の相互理解を促進するため、母国に「日本武道文化センター」の建設を目指している。

第3回米百俵賞受賞者（H11 表彰）

新潟国際ボランティアセンター（新潟市）

ベトナムにおける小学校建設とその運営支援をはじめとする様々なボランティア活動を通して、地方初のNGOとして肩肘を張らない国際協力・国際交流にチャレンジしている。

第4回米百俵賞受賞者（H12 表彰）

秋尾 晃正（東京都練馬区）

タイの子どもたちの中学進学を支援する「ダルニー奨学金」事業を続けるとともに、ラオスの子どもたちに対しても支援活動を広げている。

同特別賞受賞者

寒川 孝久（徳島県北島町）

絵のついた点訳という新しい分野を開拓し、目の不自由な子どもたちの豊かな心を育むとともに絵本の点訳者の育成に貢献している。

第5回米百俵賞受賞者（H13 表彰）

オーガスティン・アゾチマン・アウニ（ガーナ共和国国籍）

「教育こそ国の財産である」という信念に基づき、郷里ガーナ共和国のプアルグ村の教育支援のため、小学校を建設するなど、初等教育の充実に力を注いでいる。

第6回米百俵賞受賞者（H14表彰）

村上 一枝（東京都武蔵野市）

世界の中の最貧国の一つであるマリ共和国で識字教室や井戸作りなどを行い、農村の自立を支援している。

同特別賞受賞者

相馬 英夫（新潟市）

私塾「耕心塾」を開設し、学校に行こうと思っても行けない不登校等の児童・生徒を無償で受け入れ、自立のための指導を行っている。

第7回米百俵賞受賞者（H15表彰）

高橋 一馬（千葉県市川市）

飢餓に苦しむアフリカ・サヘル地域の砂漠化防止と住民の食糧自給を目指し、苗木づくり、野菜栽培、薪の消費量を抑える改良カマド作りの技術などの普及に努めている。

同特別賞受賞者

近藤 亨（ネパール王国）

ヒマラヤ山麓の秘境ムスタンにおいて、これまで不可能とされていた稲、野菜、花などの栽培に成功し、ムスタンで暮らす人々に大きな夢を与えている。

第8回米百俵賞受賞者（H16表彰）

山之内義一郎（長岡市）

都市部の学校の子どもたちにも身近に自然と触れ合い、豊かな感性を育ててほしいと、地域住民や児童とともに校内の空き地に苗木を植え、「学校の森」づくりを広めている。

第9回米百俵賞受賞者（H17表彰）

南 研子（東京都杉並区）

広大なアマゾンの熱帯雨林と野生動物の保護活動を続けるとともに、先住民のインディオへの識字教育や学校建設などの支援活動を行っている。

第10回米百俵賞受賞者（H18表彰）

後藤 文雄（東京都武蔵野市）

カンボジアで教育を受けられない子どもたちを引き取り、里親となって教育を受けさせたほか、私費を投じて現地に学校を建設するなどの支援活動を行っている。

第11回米百俵賞受賞者（H19表彰）

ルダシングワ真美（ルワンダ共和国）

ルワンダの内戦によって、手足を失うなど障害を負った人々のために、義肢装具の製作や義肢製作技術者の育成、障害者のリハビリと社会復帰支援などの活動を行っている。

第12回米百俵賞受賞者（H20 表彰）

駿溪トロペカイ（茨城県つくば市）

恵まれない環境にあるアフガニスタンの女性支援のため、「希望の学校」を設立し、ダリ語の読み書き、計算、裁縫、服装デザインの指導を行っている。

同特別賞受賞者

ホンジュラス国立演劇学校（ホンジュラス国）

演劇「米百俵」をホンジュラス国内各地で80回以上上演し、コスタリカやニカラグアなど他の中米の国々でも上演。世界に「米百俵の精神」を広め、国際親善に貢献している。

第13回米百俵賞受賞者（H21 表彰）

バイマーヤンジン（大阪府吹田市）

故郷チベットに教育を普及させるため、日本でチベット民謡の公演活動を行いながら、私財を投じて小学校の建設や奨学金の支給を続けている。

第14回米百俵賞受賞者（H22 表彰）

NPO法人日本ネパール女性教育協会（東京都文京区）

ネパールにおける少女の就学率向上のため、遠隔地の少女を教員として育成するとともに、学生寮の建設や里親制度の創設など、教育の発展のための活動を続けている。

第15回米百俵賞受賞者（H23 表彰）

片桐和子・昭吾（新潟市）

インドのストリートチルドレンのため、子どもたちが安心して眠れる施設「憩いの村」を建設するなど、私財を投じて現地の子どもへの支援活動を行っている。

第16回米百俵賞受賞者（H24 表彰）

シルパカラ・アカデミー劇団（バングラデシュ）

バングラデシュでの戯曲「米百俵」の公演を通し、現地で教育の重要性、人づくりの大切さを説く活動を続けている。

第17回米百俵賞受賞者（H25 表彰）

小林 茂（長岡市）

アフリカのストリートチルドレンの生き様を描いた「チョコラ！」や阿賀野川流域を舞台に新潟水俣病の被害者家族が遅しく暮らす様子を描いた「阿賀に生きる」等の映画制作や講演活動を通して、教育、福祉などの問題を広く発信している。

第18回米百俵賞受賞者（H26 表彰）

内藤 眞（新潟市）

ミャンマーの医療関係者育成のため、ミャンマーと日本の医学生、医師同士の交流の促進を図り、両国大学間での共同研究ができる体制を整えた。また、インフルエンザ研究拠点の設立に尽力し、研究機会の提供と医療の質の向上に貢献している。

第19回米百俵賞受賞者（H27表彰）

齋藤 惇夫（埼玉県さいたま市）

「子どもたちに本を読んでやることの大切さ」、「優れた物語を選ぶことの大切さ」を訴える講演活動を全国各地で実施。子どもたちへの本の読み聞かせが広がることにより、子どもたちが心豊かな人間として成長し、未来の日本を支えていく原動力になることを願い、活動を続けている。

第20回米百俵賞受賞者（H28表彰）

NPO法人インクルいわて（岩手県盛岡市）

ひとり親に対する就職のためのスキル習得、家庭との両立支援や子どもへのケアなど、ひとり親家庭の社会的な自立を支援している。

第21回米百俵賞受賞者（H29表彰）

NPO法人障がい者相互支援センターMCP（福岡県太宰府市）

聴覚障害者が授業に参加できるように、大学の講義の内容をノートやパソコンで文字にして伝えるボランティアの育成や、障害者向けの学習支援教室を開催するなど、聴覚障害者の学習支援を行っている。

第22回米百俵賞受賞者（H30表彰）

にじのはしファンド（沖縄県那覇市）

沖縄県内の児童養護施設等の出身の子どもたちに対し、奨学金の給付や、資格取得資金助成などを行い、人材育成に貢献している。

第23回米百俵賞受賞者（R1表彰）

モハメッド ヌルル エラヒ・美砂子（見附市）

バングラデシュの農村において、教育機会のない子どもたちのために小学校を建設するとともに、学校建設のための募金では、中之島中央小が学校田の収穫米売上金を寄附し、テレビ電話で現地児童との交流を図るなど、相互の学びを行っている。

同特別賞受賞者（R1表彰）

荒川 勝巳（ケニア）

ケニアの貧困家庭の子どもたちのために、児童養護施設、幼稚園、小学校を開設するとともに、自立のための裁縫教室、縫製工房を開設し教育を行うなど、人材育成に貢献している。